

## 放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

アンケート実施期間:2024年12月

結果公表日:2025年3月27日

## 回答率

事業所職員: 4名回答、回答率 80%  
保護者様: 22名回答、回答率 81%

## 職員の意見

## ○環境・体制整備

設備基準は満たしてはいるが、サッカーやドッチボールなど動きのある遊びを好むお子様も多い為、遊び方によっては狭く感じることもある。昨年度の自己評価結果を参考に課外活動の機会を増やすことは出来たが、天候等の外的要因によって中止することもあり、実施回数が多いはなかった。来年度以降も課題として考えているため、改善していく必要がある。

## ○業務改善

毎日業務前ミーティングを行い、職員間で情報共有の場を設けている。定期的に心理士を交えて利用者の支援について検討する機会も設けて、より良い支援が行えるよう心掛けている。

## ○適切な支援の提供

半年に1度個別支援計画の更新面談を行い、保護者の意見を取り入れてお子様の状況に合わせた目標設定を行っている。また、目標設定の経緯等を職員間で共有することで、職員間で共通認識を持って支援にあたることができている。

## ○関係機関や保護者との連携

送迎時に保護者へその日のお子様の様子をフィードバックしている。また、お子様が一人で通所をされている場合にはサービス提供記録にて詳しく状況説明をするように努めている。関係機関との連携では、地域の放課後等デイサービス連絡会やモニタリング等へ定期的に参加し、地域や他事業所との連携を図っている。

## ○保護者への説明責任等

療育活動内容についてはニュースレターを毎月発行し周知している。新規利用の方には、契約時に契約内容だけでなく、教室の特徴や取り組み内容などもお伝えし、利用開始前後でのギャップがないように努めている。

## ○非常時等の対応

毎月1回、地震・火災・不審者対応など様々なシチュエーションを想定した避難訓練を行っている。また、虐待防止や身体拘束適正化のための教室内研修も定期的実施することで、普段の支援を振り返り、より適切な支援が行えるようにしている。

## 保護者様のご意見

### ○環境・体制整備

「生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境か」という設問に対し、約9割の方から「はい」という回答をいただいた。「職員によって支援の専門性の差がある」というご意見があったので、社内研修も活用し、より一層職員の専門性を高めていける取り組みが必要である。

### ○適切な支援の提供

「こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いませんか」という設問に対し、9割以上の保護者様から「はい」という回答をいただいた。「スタッフの皆様には感謝しかありません！」というご意見もいただいた。

### ○保護者への説明等

「日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況や課題について共通理解ができていると思いませんか」という設問に対し、9割以上の方から「はい」という回答をいただき、日ごろからの連携が取れているとお声をいただいた。

### ○非常時等の対応

「事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。」という設問に対し、8割以上の方から「はい」という回答をいただいた。一方で「わからない・どちらともいえない」という回答もあったので改善が必要と考えている。

### ○満足度

「こどもは安心感をもって通所していますか」「事業所の支援に満足していますか」という設問に対し、9割以上の方から「はい」という回答をいただいた。保護者や利用者の満足度が高いご意見が多かった。

## 昨年度の振り返り

### ○今年度の取り組む具体策

- ・スタッフの支援力向上のため、研修機会を設けたり、具体的な支援の方法を検討・実行していくことにより、スタッフ全員が同じ支援をお子様に提供できるよう努めていく。
- ・昨年度は、新しい活動プログラムを取り入れることが出来たが、さらに改善し、今お子様が興味を持っている事などを取り入れたり、活動プログラムの幅を広げていく。

### ○改善できた点・まだ残る課題

- ・社内研修や教室内研修を行ない、支援の質を上げる取り組みができた。
- ・今年度から土曜日開室を行なうことにより、平日の放課後では出来ない課題や新しいプログラムに取り組むことが出来た。来年度は長期休みや学校の振替休日を活用して、土曜日以外にも、新しい活動プログラムを取り入れていきたい。

## アンケート結果からみる教室の強み・改善点

### ○教室の強み

- ・課外活動が増えたことにより、教室で取り組んでいる集団療育や個別課題の内容を実際の社会資源を用いて、実践練習することができた。
- ・今年度から土曜日開室が始まったことにより、平日に取り組めなかった新しいプログラムに取り組むことができ、以前よりも活動プログラムが多彩になった。

### ○改善点

- ・地域との繋がりが少なかったため、定期的に課外活動を企画し、地域に開かれた教室づくりをしていく。
- ・お子様ひとりで通所している場合、保護者と直接会ってお話できる機会が少ないため、サービス提供記録以外でも、日々の様子や相談事について連携できる機会を増やす必要がある。

## 中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

### ○中長期的な改善計画

- ・定期的に課外活動を企画・実行する。
- ・前期後期で保護者会や療育参観を実施し、実際の教室の様子を見る機会を設ける。
- ・サービス提供記録だけでなく、ブログやメールなどを活用し、具体的に教室で実施している活動を発信して、開けた教室作りに努める。

### ○1年間で取り組む具体策

- ・祝日や学校休校日にも課外活動を企画し、社会経験を積んだり、地域との交流を図ったりしていく。
- ・来年度は前期後期で保護者会や療育参観を実施する。
- ・サービス提供記録以外にも、メールやその他ツールを活用し。活動の様子や利用者様の様子を分かりやすく効率的に発信できるようにしていく。
- ・ブログを月に1回以上更新し、教室の様子や雰囲気を知ってもらえる機会を増やしていく。